

公益社団法人日本学生陸上競技連合 2023年度（令和5年度）事業報告

【概要】

令和5年度は新型コロナウイルス感染症による制限が法律により緩和され、競技会運営や派遣事業など、コロナ禍以前にほぼ戻った環境での実施となった。各事業については、年度当初に立てた事業計画に沿って遂行し、昨年に引き続き、4月に日本学生陸上競技個人選手権大会を開催、ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)(以下WUG)の日本代表選手選考競技会として実施した。懸案だったWUG参加は2回の延期を経てようやく派遣が実現した。

天皇賜盃第92回日本学生陸上競技対校選手権大会(以下日本インカレ)は、昨年の京都開催から首都圏での開催を検討した。選手、運営スタッフはもちろん観客に対して、交通の便や宿泊環境など、より良いロケーションを実現するべく努力したが、結果は他の競技団体との調整が難しく、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場にて開催となった。暑熱対策において、特に配慮すべき点としたこともあり、大事に至ることもなく、好記録が続出する中、無事終了することができた。

駅伝シーズンに入り、昨今の気温上昇傾向の環境において、選手の安全管理が特に心配されるようになった。各駅伝大会においては、緊急事態(走行困難な選手)への対応方針を明確にし、審判への周知やチーム責任者との連携など、今まで以上に対策を入念に行った年度でもあった。

また、長らく派遣を中止していた世界大学クロスカントリー大会も2018年のスイス開催以来6年ぶりの派遣(2月マスカット/オマーン)を実施した。

【公1-競技会】

2021年から延期となっていたWUGの日本代表選手選考のため、通常6月に開催する日本学生陸上競技個人選手権大会を昨年と同様4月へ移動し、男子24名、女子17名を選出した。また、台湾の学生選抜チームを4年ぶりに受け入れた。実業団・学生対抗陸上競技大会は、今大会から日本グランプリシリーズ(グレード2)に参入し、ワールドランキングポイント(エランク)の獲得に向けてより優位な位置づけの大会として実施した。

日本インカレは、90回大会に続き熊谷市にて開催した。昨年の京都に続き、有料観戦として開催したが、京都開催の販売額には届かなかった。総合優勝は男子、順天堂大学、女子は日本体育大学が獲得。日本タイ記録1、日本学生新記録1大会新記録4、と盛会のうちに無事終了した。

10月に入り、駅伝大会の幕開けとなる第35回出雲駅伝は、ほぼコロナ前に戻した運営で開催。IVYリーグ選抜チームも2019年以来4年ぶりの参加となった。恒例となっていた歓迎レセプション、さよならパーティーなども実施され、コロナ禍前の賑わいを取り戻し、大変盛り上がった大会となった。

10月29日開催の第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会は、警察の指導等によりコース変更を行って開催した。弘進ゴムアスリートパーク仙台(仙台市陸上競技場)発着となった。概要でも述べたが、選手走行において、安全を脅かすことが2度発生し、競技継続の判断など、安全管理上の問題が起きた大会でもあった。今後、温暖化の影響がますます懸念される中、駅伝の安全対策を発信することができた。

11月5日開催の第55回全日本大学駅伝対校選手権大会、12月30日開催の2023全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)は、コロナ禍前に戻った運営で実施し、地元の理解や多くの関係者の努力によって盛況のうち無事終了することができた。尚、富士山女子駅伝については、実行委員会形式を取っているが、次回大会に向けては、インボイス制度の関係で財務関係の見直し、すなわち運営コスト等の削減を必要とする課題が残った。

2024年に入り、3月10日開催、第27回日本学生ハーフマラソン選手権大会(男子)は、例年通り立川シティーハーフマラソン大会との併催で実施した。次回大会より香川丸亀国際ハーフマラソンと併催になることから、最後の立川開催となった。

続く3月17日、松江レディースハーフマラソンとの併催にて第27回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会を開催、また、同日に開催した全日本能美競歩と併催の第18回日本学生20km競歩選手権大会は、能登半島地震の影響が懸念されたが、予定通り開催し、無事終了した。

【公2-育成】

WUG(2021/成都)への派遣は2回の延期を経てようやく派遣が実現した。日本選手団は41名の選手(男子24名、女子17名)にスタッフ15名の総勢56名を派遣した。前回、前々回と同様、国別メダル獲得数において最上位を目標とし競技に臨んだが、結果は金メダル2、銀メダル4、銅メダル5、入賞23という成績であった。ポイントランキング制度の導入により、大会のレベルが上がったと分析、今大会の入賞者は出場選手41名中36名(約88%)であった。選考基準の精度が上がってきたことも評価された。他方で中国への渡航手続きに関して、以前の渡航とは違いコロナ禍の影響もあり、詳細な個人情報が必要とする査証の申請、取得など、選手・スタッフはもちろん事務局等の関係者にも大きな負担となった。

海外派遣事業の再開として、2024年2月、世界大学クロスカントリー大会(マスカット/オマーン)へ6年ぶりに選手8名スタッフ3名を派遣した。結果は、国際標準の10kmにおいて女子の銅メダル1個にとどまった。国別団体戦については、男子10kmは1位、女子は10km3位であったものの、今大会においては2kmの部のエントリーも団体戦の必須としたため、表彰台に上がることはできなかった。この件は、組織委員会におけるレギュレーションが曖昧であった(後日FISUで問題に)ことから残念な結果となった。

ドーピングコントロールに関する事業については、主催の4大会において実施された。残念なことに日本インカレにおいて、留学生がドーピング違反となり失格。この選手は出雲駅伝に出場したため、チームも失格となった。他の選手の区間成績の扱いについて日本学連関係者間で議論されたが結果は個人成績も認めないこととした。

審判員育成については、B級審判の養成、資格取得については各地区学連の対応において実施した。

指導者会議については、本年度69回を数え、対面とオンラインを併用して実施した。テーマは、①FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021成都)の報告、②ワールドランキングコンペティションへの申請上の留意点、であった。

他の育成事業として、栄章贈与式(新記録章)、クロカン日本選手権(共催/福岡)、東京マラソンへの学生エリート、準エリート選手推薦を予定通り実施した。

{公3-調査研究}

調査研究事業においては、本年もtoto助成金を受領し、年3回の陸上競技研究(132~134号)を発行した。共催事業の第22回日本陸上競技学会については、中京大学キャンパスにおいて2月22日、23日の両日に開催された。

{法人管理部門}

令和5年度はWUGの選考のため、4月24日にオンラインで理事会を開催。5月20日開催の第59回理事会(主に事業報告)はZOOMIによるWeb会議とした。6月開催の定時社員総会および60回理事会については、新型コロナウイルス感染症による制限も緩和されたことから対面による実施とした。日本インカレ前に開催する理事会(61回)は熊谷市で開催。12月の第62回理事会は日本学生新記録章の表彰式も兼ね、新宿の会議室にて開催した。本年度最終の第63回理事会(主に来年度事業計画)も同様に新宿の会議室にて開催した。

日本学連の活動において重要な立場にある学生役員のための第49回幹部役員研修会は、1泊2日の日程で実施した。

{普通会员の登録数}

令和5年度、普通会员登録者数は19,500名となった。令和4年度は18,959名であったことから、541名の増員となった。令和2年度の対前年2000名を超える大幅な減少から少しずつ回復している状況となっており20,000名の回復まであと一步となっている。

(1) 公1<競技会>

No.	競技会	期日	場所	種目数	参加校・競技者数	備考
1	2023日本学生陸上競技個人選手権大会兼ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)日本代表選考競技会	2023年 4月21日(金) ~23日(日)	レモンスタジアム平塚 *ハンマー投げ/東海大学湘南校舎競技場	男子18 女子18	男:77校/461名 台湾/9名 女:88校/515名 台湾/8名	大会新(12) スポーツ振興基金助成金事業
2	(2023オールスターナイト陸上) 秩父宮賜杯 第63回実業団・学生対抗陸上競技大会 (日本グランプリシリーズ/G2)	2023年 7月1日(土)	平塚市 レモンスタジアム平塚	男子9 女子10	54名 60名 (オープン参加は含まず)	実業団211点 男子105点 女子106点 学生177点 男子88点 女子89点 総合優勝チーム: 秩父宮賜杯、 内閣総理大臣杯 男子優勝チーム: 文部科学大臣杯 女子優勝チーム: 厚生労働大臣杯
3	天皇賜盃 第92回日本学生陸上競技対校選手権大会	2023年 9月14日(木) ~17日(日)	熊谷スポーツ文化公園 陸上競技場	男子22 女子22	120校...998名 109校...810名	男子優勝校 順天堂大学(95点) 女子優勝校 日本体育大学(69点) 日本タイ(1), 日本学生新(1), 大会新(6)
4	第35回出雲全日本大学選抜駅伝競走	2023年 10月9日(月/祝)	出雲市 45.1km 6区間		国内...20チーム 海外...1チーム(IVY)	優勝: 駒沢大2時間07分51秒(大会新) 2位: 青山学院大 2時間10分35秒 ※優勝チームには内閣総理大臣杯、 文部科学大臣賞を授与

5	第41回 全日本大学女子駅伝対校選手権大会	2023年 10月29日(日)	仙台市 38.0km 6区間		国内・25校+1チーム (東北選抜)	優勝：名城大2時間04分29秒 (7年連続8回目) 2位 大東大 2時間05分21秒 ※優勝チーム：文部科学大臣杯を授与
6	秩父宮賜杯 第55回全日本大学駅伝対校選手権大会	2023年 11月5日(日)	名古屋市～伊勢市 106.8km 8区間		国内・25校+2チーム (東海選抜/全日本大学選抜)	優勝 駒沢大 5時間9分00秒 (4年連続16回目の優勝) 2位 青学院大 5時間12分34秒 ※優勝チーム：秩父宮賜杯を授与
7	2023全日本大学女子選抜駅伝競走	2023年 12月30日(土)	富士市・富士宮市 43.4km 7区間		国内…22単独チーム+全日本大学選抜+静岡県選抜)計24チーム	優勝 名城大 2時間22分42秒 2位 日本体育大 2時間24分04秒 ※優勝チーム：文部科学大臣杯を授与
8	第27回日本学生ハーフマラソン選手権大会	2024年 3月10日(日)	立川市		エントリー:1385名 完走:847名	優勝：青木瑠郁(國學院大)1.02.06 2位：近田陽路(中央学院大)1.02.19 3位：工藤慎作(早稲田大)1.02.29
9	第18回日本学生20km競歩選手権大会	2024年 3月17日(日)	能美市		男/エントリー:57名 女/エントリー:29名	男子優勝 吉川絢斗(東京学芸大)1時間19分12秒 女子優勝 下岡仁美(同志社大)1時間33分53秒
10	第27回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会	2024年 3月17日(日)	松江市		エントリー:83名 完走:58名	優勝：野田真理耶(大東大)1:12:01 2位：小林舞妃留(大阪学院大)1:12:03 3位：谷本七星(名城大)1:12:05
11	2023年日本学生記録年鑑の発行	2024年 3月29日発行				1000部発行 主催競技会の記録、2023年50傑、歴代10傑他

(2) 公2<育成>

No.	競技会等	期日	場所	備考
1	FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)	2023年 8月1日(火)～6日(日)	成都/中国	選手41名(男子24名、女子17名)スタッフ15名計56名 金メダル2、銀メダル4、銅メダル5、入賞23
2	秩父宮賜杯 第76回西日本学生陸上競技対校選手権大会	2023年 6月16日(金)～18日(日)	岐阜メモリアルセンター長良川競技場	日本学連共催。
3	第45回北日本学生陸上競技対校選手権大会	2023年 8月10日(木)～12日(土)	宮城野原総合運動公園陸上競技場	日本学連共催。
4	日本学連栄章贈与式/諸記録章(日本学生新記録)	2023年 12月16日(土)	東京/新宿(TKP)	【日本新記録/日本学生新記録章】 ①三浦龍司(順天堂大)3000SC 【日本学生新記録章】 (男子) ①横田俊吾(青学大)マラソン、 ②リチャード/エティエリ(東京国際大)10000m、5000m ③村竹ラシッド(順天堂大)110mH(日本記録タイ) (女子) ①柳井綾音(立命館大)10000mW ②村上来花(九州共立大)ハンマー投げ
5	2024FISU世界大学クロスカントリー選手権大会	2024年2月17日(土)～18日(日)	マスカット/オマーン	選手8名(男子4名、女子4名)スタッフ3名計11名 種目:10km 銅メダル1、
6	第107回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走(日本学連共催)	2024年 2月26日(日)	福岡市/海の中道海浜公園男子12km、女子8km	男子最高：山口智規(早稲田大)学生1位(連合杯獲得) ※29分16秒(日本選手権優勝) 女子最高：太田咲雪(立命館大)学生1位(連合杯獲得) ※27分21秒(日本選手権5位)
7	第69回指導者会議	2024年 3月2日(土)	TKP新宿/ZOOM 併催	①FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021成都)の報告(山下、安井) ②ワールドランキングコンペティションへの申請上の留意点(関根)
8	RUN as ONE 東京マラソン2024準エリート(学生)	2024年 3月3日(日)	東京	東京マラソン財団へ推薦、準エリート及びエリート
9	新規B級審判員資格認定		各地	講習会は地区学連が開催
10	ドーピング・コントロール・テスト	4回	各地	検査実施大会(日本学生個人、実業団・学生対抗、日本IC、全日本大学女子駅伝)

11	知っておきたい アンチ・ドーピングの知識2023発行	2023年1月1日発行	日本学連ホームページに公開	日本学連医事委員会編集
----	-------------------------------	-------------	---------------	-------------

(3) 公3 <調査研究>

No.	事業	期日・回数	場所	備考
1	日本陸上競技学会共催 (第22回)	2024年 2月22日 (木)～23日(金)	中京大学	日本学連共催 テーマ：日本陸上競技学会の歩みと発展
2	研究調査『陸上競技研究』の発行	年3回/132～134号		(ISSN 0919-9918)日本学連調査研究委員会 2023/6/30、10/31 2024/2/29発行 ※スポーツ振興くじ助成金事業

(4) 法人管理部門<組織力管理>

No.	事業	期間・回数等	摘要
1	理事会の開催	6回	第58回(4月24日) 第59回(5月20日) 第60回(6月10日) 第61回(9月14日) 第62回(12月16日) 第63回(3月2日)
2	定時社員総会の開催	1回	第15回定時社員総会(6月10日)、
3	会員の入会受付	2023年度	正会員 135名 普通会員(学生) 19,500名
4	公認競技会開催申請及び記録公認申請	2023年度	日本学連傘下の団体の公認競技会開催受付/日本陸連申請 日本学連傘下の団体の記録公認受付/日本陸連申請
5	会報の刊行	3回	各回 1,000部(名誉会員、正会員、役員、委員会委員 賛助会員 地区学連加盟校に配布) 5月、10月、1月
6	ホームページの運営・公開	随時	事業計画、事業報告、計算書類等の公開、競技会等に関する情報提供、等
7	2023学生役員会議	2023年 12月16日(土)	1回開催(新宿) 参加対象：各地区学連幹部学生役員
8	第49回学生幹部役員研修会	2024年 3月1日(金)～ 2日(土)	集合研修(新宿) 参加対象：令和6年度各地区学連三役
9	学連情報の掲載	毎月	『月刊陸上競技』に掲載(各地区ウェブサイト、地区選出理事、専門委員長などが執筆)